第１学年　国語科学習指導案

日　時　令和８年９月 18 日（金）第５校時
13：25～14：10
対　象　第１学年１組　29 名
学校名　墨田区立第一寺島小学校
会　場　２階　１年１組教室

令和８年度 研究主題
学びを深める児童の育成
～自分の思いや考えを伝え合う活動の充実を通して～

１　単元名　お話の大すきな場面を「大大大すき！！カード」でお家の人に紹介しよう
教材名　『やくそく』（光村図書　１年上）
並行読書材
そらまめくんのベッド　ごめんねともだち　ともだちくるかな　ありとすいか
ルラルさんのにわ　きょうりゅうたちがけんかした　トラネコとクロネコ
ともだち　けんかのきもち　いじわるちゃん　ええところ
※本で交流できるように揃える。

２　単元の目標
・物語を読んで大すきなところを紹介するために、身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ
・文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)カ
・物語を読んで大すきなところを紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ(1)エ
・粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の大好きな場面を伝えようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ ②文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。(1)カ	① 物語を読んで大すきな場面を紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。C(1)エ	① 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の大大大すきな場面を伝えようとしている。

4　児童の実態

・「おおきなかぶ」の学習では、登場人物がおむすびを転がした時の気持ちについてマイ吹き出しを使って交流し、想像を広げて楽しんで読むことができた。しかし、登場人物の行動を、叙述を基に具体的に想像することに課題が残った。

・「おむすびころりん」の学習では、登場人物がかぶをぬくときの気持ちについて、友達と考えを交流することの楽しさを味わわせることができたが、相手の話に興味をもって聞くことに課題が残った。

5　教材について

本教材「やくそく」は、自分のことだけを考えて言い合っていたあおむしたちが、広い世界に出会うことで気持ちを変化させ、最後には仲間と一緒に進もうとする姿が描かれている物語である。短い会話文や描写にある言葉を基に「あおむし」の気持ちを豊かに想像したり、具体的に思い描いたりできる教材であると考える。また、これまでの自分の生活経験と結び付けたり、友達と関わる中で生まれる気持ちに気付いたり、相手を思いやることの大切さに気付くことができ、児童が、大すきな場面を見付けやすい教材であると考える。

物語を読み進めていく中で、挿絵や叙述を基に想像を膨らませることを楽しみながら、自分の大すきな場面を見付けることは、自分の思いや考えをもつ学習の初歩となる。児童が想像を膨らませながら物語の世界を楽しんで読み、好きな挿絵や叙述を見付け、登場人物の行動や好きな理由を他者へ伝えていけるようにする。

並行読書材では、教科書教材と同様に、児童が物語の世界を十分に楽しんで読み進め、挿絵や叙述を頼りに自分の好きなところをマイ吹き出しを使って他者へ伝えたり、その場面の会話や場面を選んだ理由を表現したりしていけるように、友達との関わりが描かれている物語を用意した。

6　研究主題との関連

（1）目指す児童像

低学年	中学年	高学年
言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする子	言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする子

（2）研究主題に迫るための手だて

①言語活動の工夫

ア　言語活動

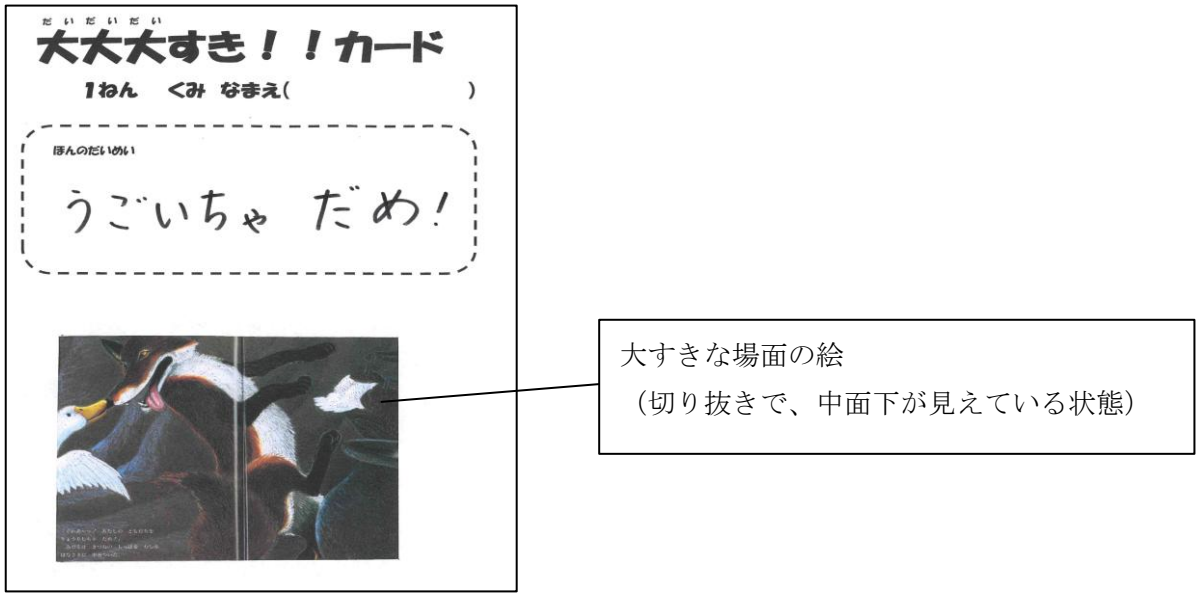
大すきな場面の登場人物の会話について、想像したことや交流したことを、「大大大すき！！カード」に書いてお家の人に紹介する。

イ　言語活動の特徴

友達との関わりが描かれている物語を並行読書材として読み進める。大すきな場面を見付け、登場人物の会話を友達と何度も繰り返しマイ吹き出しを使って交流することで、場面の様子を具体的に想像し、「大大大すき！！カード」にまとめていく。挿絵が場面の様子を想像する手立ての一つになるため、言語活動モデルは、大すきな場面の挿絵が常に見えるようにした。単元の最後にお家の人に向けて紹介するという場を設けることで、児童の学習意欲へと繋げていきたいと考える。

ウ　言語活動モデル

（表面）



（中面）

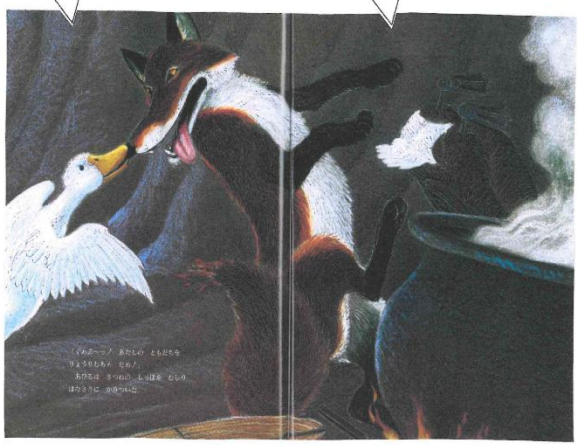
（マイ吹き出しを使って交流した）
物語を読んで大すきな場面を紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
〔思考力、判断力、表現力等〕（C(1)エ）

「ぐわぁ～っ！」あたしの ともだちを りょうりしちゃ だめ！」
あひるは きつねの しっぽを むしり はなさきに かみついた。

大すきなところの叙述を書き抜く。

きょうそうなんて かんけいない！このままなにもしなかったら、がちょうさんが たべられてしまう。

こわいけれど、がんばって たすけなくちゃ！
けりとばして、たたいてやれ～！



②交流活動の工夫

ア　指導事項との関わり

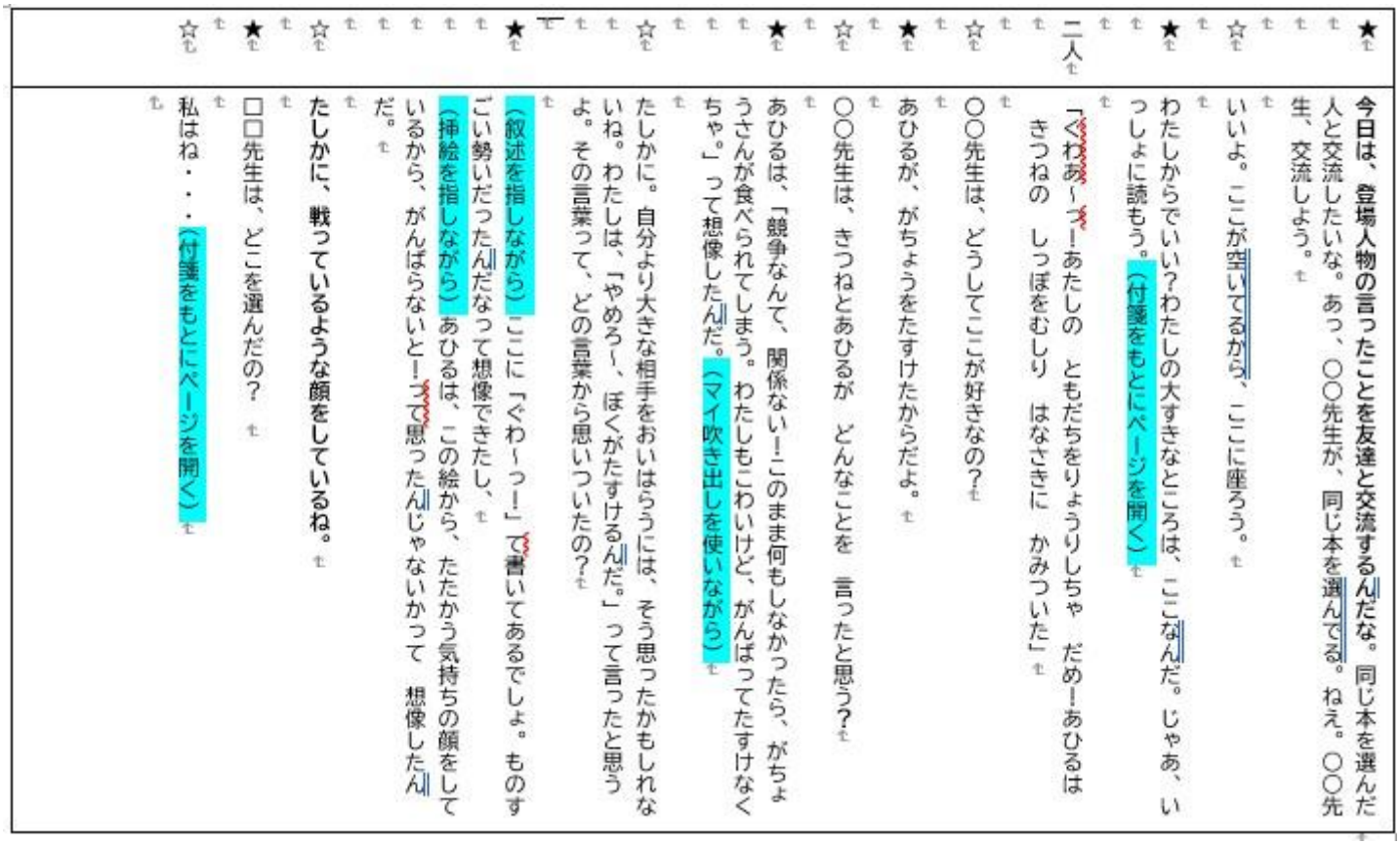
本単元で重点を置いている資質・能力は、低学年の精査・解釈「物語を読んで大すきな場面を紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の会話を具体的に想像することができる」ことである。そのため、大すきな場面の様子を想像するための交流のモデル動画では、「どんなことを言ったと思ったの？」「そのセリフってどの言葉から思いついたの？」という質問を入れ、本文や挿絵から考えられるようにした。また、「どうしてそう思ったの？」という言葉を入れることにより、登場人物の行動をマイ吹き出しを使って具体的に想像する資質・能力を確実に育てられるようにした。

イ　学習経験との関わり

文学的な文章として『おおきなかぶ』や『おむすびころりん』を学習し、おもしろいと思った場面についてマイ吹き出しを使って交流し、まとめる学習を行った。本単元では、児童が登場人物の行動や会話を具体的に想像したことを交流できるように、以下の点に留意して動画を作成した。

・大すきな理由を本文や挿絵から考えられるよう、叙述や挿絵を指さし、一緒に読みながら交流する様子を示した。
・交流する相手の考えを聞いて、自分の考え（共感したことや相違点など）を伝える様子を示した。

ウ　モデル動画の台本



8　単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）

次	時	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規準 （評価方法）
第一次	1	**大好きなお話の大すきな場面をお家の人に紹介するために、学習計画を立てよう。** ・教師の大すきな場面の紹介を聞き、「お話の大すきな場面を「大大大すき！！カード」でお家の人に紹介しよう」という課題をもつ。 ・学習計画を立てる。	
第二次	2	**『やくそく』①** **『やくそく』はどんなお話か確認しよう。** ・「誰が、どうして、どうなったか」が分かるところ（拡大した全文シート）に、サイドラインを引き、お話の大体の内容を捉える。（交流）	【知識・技能】① 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（交流・大大大すき！！カード） 【知識・技能】② 文の中における主語と述語との関係に気づいている。（交流） 【思考・判断・表現】① 「やくそく」を読み、大すきなところを紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像している。（交流・大大大すき！！カード） 【主体的に取り組む態度】① 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の好きな場面を伝えようとしている。（交流・大大大すき！！カード）
	3	**『並行読書材』①** **自分が選んだお話はどんなお話か確認しよう。** ・「誰が、どうして、どうなったか」が分かるところ（本）に付箋を貼り、お話の大体の内容を捉える。（交流）	
	4	**『やくそく』②** **大すきな場面を探しながら『やくそく』を読もう。** ・『やくそく』を読み、大すきな場面を見付けて、サイドラインを引く。 ・大すきな場面の叙述を「大大大すき！！カード」に書く。 ・拡大した全文シートに付箋を貼りみんなが選んだ場面を全体で確認する。	
	5	**『並行読書材』②** **大すきな場面を探しながら自分が選んだ本を読もう。** ・並行読書教材を読み、大すき場面を見付けて付箋を貼る。 ・大すきな場面の叙述を「大大大すき！！カード」に書く。 ・マトリックス表にシールを貼りみんなが選んだ本を全体で確認する。	

第三次	6	**『やくそく』③** **大すきな場面の登場人物が言っていること をマイ吹き出しを使って交流し、吹き出しカ ードに書こう。** ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・全文シートの付箋を手掛かりに、相手を選んで、登場人物の行動や会話を具体的に想像し、大すきをはっきりさせるために、マイ吹き出しを使って交流する。 ・相手を変えて何度も交流を繰り返し、大すきな場面を具体的に想像できるようにする。 ・交流したことを基に、想像したことを「大大大すき！！カード」に書く。	
	7（本時）	**『並行読書材』③** **大すきな場面で登場人物が言っていること をマイ吹き出しを使って交流し、吹き出しカ ードに書こう。** ・モデル動画から、交流の見通しをもつ。 ・マトリックス表を手掛かりに、相手を選んで、登場人物の会話を具体的に想像し、大すきをはっきりさせるために、マイ吹き出しを使って交流する。 ・相手を変えて何度も交流を繰り返し、大大大すきなところを具体的に想像できるようにする。 ・交流したことを基に、想像したことを「大大大すき！！カード」に書く。	
事後	8	**『並行読書材』④** **大すきなところをお家の人に紹介しよう** ・完成した「大大大すき！！カード」を使って、お家の人に選んだお話と大すきな場面を紹介する。	【主体的に取り組む態度】① 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って自分の大大大すきな場面を伝えようとしている。

9　本時（全８時間中の第７時間目）

（１）本時の目標

並行読書材の大すきな場面の登場人物の会話を想像して交流し、「大大大すき！！カード」の吹き出し部分に書くことができる。

（２）本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	1　単元のゴールを確認する。 2　前時までの学習を振り返る。 3　本時のめあてを確認する。	・単元のゴールを明確にするために、言語活動モデルと学習計画表を確認する。 ・『やくそく』の大すきな場面の登場人物が言っていることをマイ吹き出しを使って交流し、吹き出しカードに書いたことを振り返る。 ・モデル動画を見て、交流の見通しをもたせる。	
（並行読書材） 大すきな場面で登場人物が言っていることをマイ吹き出しを使って交流し、吹き出しカードに書こう。			
展開 (37分)	4　登場人物が言っていることを想像するためにマイ吹き出しを使って交流する。 5　交流したことを基に、登場人物の会話について想像したことを吹き出しカードに書く。	・並行読書マトリックス表を手掛かりに、同じ本を選んだ友達や考えを聞いてみたい友達等、意図的に相手を選んで交流させる。 ・叙述や挿絵を基に想像したことを理由として交流させる。 ・交流が停滞しているペアには、教師が３人目のメンバーとして交流に加わり、「どんなことを言っていると思ったの？」「どうしてそう思ったの？」など、本文や挿絵を基にして交流ができるよう促していく。 ・交流したことを思い出させるため、書く前に声に出すよう促す。 ・児童が書き方を参考にできるよう、教師が作成した言語活動モデルをロイロノートで見られるようにしておく。	【思考・判断・表現】 物語を読んで大すきな場面を紹介するために、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（交流・大大大すきカード） 【A基準】 マイ吹き出しを使って、登場人物の行動や会話を叙述や挿絵をもとに具体的に想像し、交流している。 【B基準】 マイ吹き出しを使って、想像したことを交流している。 【B基準に達しない児童への手立て】 教師が３人目のメンバーとして交流に加わり、「自分だったらどんなことを話す？」などと問いかけ、会話の例を一緒に考える。
まとめ (3分)	6　本時の学習を振り返る。	・本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	